

# 『共生学ジャーナル』投稿規定

Journal of Kyosei Studies: Critical Studies in Coexistence, Symbiosis and Conviviality

## (1) 投稿資格

原則として大阪大学大学院人間科学研究科の教員と大学院生。共著論文の場合、第一著者を大阪大学大学院人間科学研究科の教員と大学院生とする。ただし、編集委員会からの依頼原稿や編集委員会が認めた者は上記の例外として投稿を認める。

## (2) 原稿内容

本誌は、共生学とその関連領域（哲学、社会学、教育学、人類学、国際協力学、災害研究、行動学、社会福祉学、地域研究など）に関する研究成果を公表し、共生学の推進に資する論文・研究ノート・書評・その他とする。

## (3) 査読と掲載の可否

「論文」原稿は、編集委員会が依頼した査読者が査読を行い、その結果をもとに編集委員会が掲載の可否を決定する。なお、査読者の氏名は非公開とする。

## (4) 投稿原稿の字数

(日本語)

論文	12,000～24,000 字 (投稿用のテンプレートで 12～25 頁)
研究ノート	6,000～16,000 字 (投稿用のテンプレートで 6～16 頁)
書評	6,000 字程度 (投稿用のテンプレートで 4 頁程度)
その他 (エッセイなど)	10,000 字以内

(英語)

Research paper	6,000-10,000 words
Research note	3,000-7,000 words
Book review	c.2,500 words
Essay, others	max.6,000 words

なお、図版・写真は頁数に含める。ただし、編集担当者および編集委員長が認めた場合には、枚数の増減を許可する。

## (5) 刊行

年 1 回 (3 月)、電子ジャーナルとしてオンライン上で刊行する (大阪大学学術情報庫 OUKA で公開する。公開される論文等の著作権は著者に存する)。

## (6) 著者の責任

掲載原稿の内容・表現および図表・写真等の掲載は、すべて著者が責を負うものとする。

## (7) 投稿

投稿希望者は、あらかじめ編集委員会・事務局に投稿者氏名、所属、題名、内容の種別を届け出て、投稿申込の手続きをおこなう。

原稿は、規定の「Word (マイクロソフト)」テンプレートを使用して作成する。原稿提出は、テンプレートに入力した Word ファイルをメールに添付し、編集委員会・事務局宛に締め切り日までに送付する。その際、大学院生による投稿の場合、必ず指導教員の事前承諾・指導を受けた上で、原稿提出の際には、指導教員を cc に入れて編集委員会・事務局宛にメール送信すること。

なお、英語を第一言語としない投稿者が英語で投稿する場合は、必ず事前に英文校正を受け、投稿の際に英文校正の証明書類を添付すること。また、日本語を第一言語としない投稿者が日本語で投稿する場合にも、必ず事前に日本語チェックを受けること。

## (8) 様式

以下のテンプレート・ファイルを共生学系の HP (<http://kyosei.hus.osaka-u.ac.jp/>) よりダウンロードして使用する。

### ■執筆要領／テンプレート・ファイル (MS ワード形式)

論文用「kyoseijournal\_temp1.dotx」をダウンロード

研究ノート用「kyoseijournal\_temp2.dotx」をダウンロード

書評用「kyoseijournal\_temp3.dotx」をダウンロード

その他用「kyoseijournal\_temp4.dotx」をダウンロード

### ■使用フォントについて

和文

表題：MS ゴシック 12pt (全角)

本文：MS 明朝 10pt (全角)

文献リスト：MS 明朝 9pt (全角)

英文

表題：Times New Roman 12pt (太字・半角)

本文：Times New Roman 11pt (半角)

文献リスト：Times New Roman 9pt (半角)

※ その他、各テンプレートに従うこと。

### ■要旨、キーワードについて

論文には 400 字程度の和文の要旨、200 語程度の英文要旨をつけ、研究ノートには同分量の和文要旨あるいは英文要旨 (希望であればその両方) をつけること。

論文および研究ノートいずれの場合も、要旨の言語に応じたキーワード 3～5 つをつけること。

なお、日本語論文要旨、キーワード、英語要旨、キーワードは最初の 1 ページに収まるよ

うにすること（詳細はテンプレート参照）。

#### ■文中引用の記入について

長文の引用は、本文のあと1行空けるとともに、左から2字分字下げする。引用部分のフォントは9ptとし、引用の後も1行空ける。

#### ■注の記入について

本文中の注の指示は、該当箇所の右肩に、<sup>(1)(2)</sup> などのように通し番号を付け（句読点は通し番号の外に入れる）、注は原稿末尾に一括して記入する。文末注のフォントは9ptに設定する。

#### ■文献引用・参照文献の記載について

〈文献引用〉 文献引用は、本文中に（著者名 刊行年:頁数）と表記するか、あるいは後注にて示すこととします（括弧は全角、スペースは半角）。

\*本文中に表記する場合の例

…である（栗本 2008:65-66）。

栗本（2008:65-66）は…と指摘している。

（Koizumi 2005; ヒベイロ 2007）

（栗本 2006; 2008） 同一著者による複数の論文・著者を参照する場合

（Ducrot & Todorov 1972） 二人の著者による論文・著書を参照する場合

（Ducrot, Todorov, Sperber, Safouan & Wahl 1968） 複数著者による論文・著書を参照する場合（ただし、二回目以降は、「Ducrot et al.」と略記すること）

〈参照文献〉 参照文献は、使用言語ごとに区分して一覧表示してください。日本語文献の配列は、著者名（姓）の50音順とします。日本語以外の言語によって書かれた文献の配列は、著者名（姓）のアルファベット順とします。同一著者の文献が複数あれば刊行年順に列挙してください。

#### \*雑誌論文

栗本 英世 2006 「戦後スーダンの政治的動態—包括的平和協定の調印から一年を経て」  
『海外事情』54(4):77-92。

Koizumi, Junji. 2005. Pluralizing Anthropology. *Anthropology News* 46(7):9.

#### \*論文集所収の論文

栗本 英世 2008 「教育に託した開発・発展の夢—内戦、離散とスーダンのパリ人」 石塚道子・田沼幸子・富山 一郎編『ポスト・ユートピアの人類学』pp.45-69、人文書

院。

ヒベイロ、グスタボ リンス 2007「複数のグローバル化—代替的な（ネイティブに代わる）トランスナショナルな過程と行為者たち」久保 明教訳、小泉 潤二・栗本 英世編『第3巻 トランスナショナルリティ研究』（「インターフェイスの人文学」研究報告書 2004-2006）pp.49-108、大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文学」。

Malkki, Liisa. 2001. Figures of the Future: Dystopia and Subjectivity in the Social Imagination of the Future. In Eisei Kurimoto (ed.). *Rewriting Africa: Toward Renaissance*, pp. 239-261. JCAS Symposium Series 14. Osaka: JCAS, National Museum of Ethnology.

#### \* 単行本

稲場 圭信 2011『利他主義と宗教』弘文堂。

Hartigan, John. 2015. *Aesop's Anthropology: A Multispecies Approach*. Minneapolis: University of Minnesota Press.

Daston, Lorraine (ed.). 2004. *Things That Talk: Object Lessons from Art and Science*. New York: Zone Books.

#### \* 翻訳書

ギアツ、クリフォード 2002『解釈人類学と反=反相対主義』小泉 潤二編訳、みすず書房。

#### \* Web サイト

環境省（編）2013「環境白書・循環型社会白書／生物多様性白書 平成 25 年版」  
<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h25/index.html>（2018/6/1 アクセス）

United Nations, 2017. One Health, September 2017, <http://www.who.int/features/qa/one-health/>  
（2018/6/1 アクセス）

#### (9) 査読要項

1. 投稿された「論文」原稿はすべて投稿規定並びに本要項に基づき、編集委員会の指定した査読者による査読を行うものとする。
2. 編集委員会は投稿原稿一編につき原則として専門的知識を有する一名以上の査読者を選定し、査読を依頼する。
3. 編集委員会より依頼された査読者は、投稿された原稿について、投稿規定と照合した上で、形式が整っているかどうか、学術的に問題がないか（独自性・事実誤認等）を精査の上、掲載の可否について（①掲載可（誤字・脱字などの微修正を含む）、②修正の

上掲載可、③掲載不可)、具体的な査読意見を付して、2週間以内に編集委員会（担当編集委員）に報告を行うものとする。

4. 編集委員会は査読者からの報告を受けた上で、最終的な掲載の可否について決定し、投稿者に通知する。

5. 3-②の修正の上掲載可となった投稿論文については、編集委員会から投稿者に返却して、修正稿を提出。その後、改めて掲載の有無を編集委員会にて決定し、その結果を投稿者に通知する。

6. 査読者の氏名については非公開とする。

#### (10) 研究倫理

所属機関の研究倫理規定に基づき対象者のプライバシー保護には十分留意し、写真や図表の使用にあたって、説明と同意などの倫理的な配慮の上で掲載すること。

#### (11) オンライン公開と著作権

本誌に掲載された原稿は、原則として「大阪大学機関リポジトリ OUKA」で公開するものとします。OUKA に掲載することで著作権の移動は一切発生せず、附属図書館は著作権者から公衆送信権と複製権の許諾を得るだけであるため、著作権者からの指示があれば即時無条件に OUKA から削除できます。

大阪大学機関リポジトリ OUKA <http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/>。

2016年5月25日制定  
2017年2月15日改定  
2017年5月29日改定  
2017年7月20日改定  
2018年6月1日改定  
2019年7月1日改定  
2020年8月11日改定  
2021年5月27日改定  
2021年6月24日改定  
2022年6月1日一部改訂